

六
射
撃

0943

五
一

0944

第一 戰例

一、五九二高地ノ夜襲ニ方リ後藤弁候ハ先行シテ敵
陣ヲ突ク者甚シク我側背ヲ北襲セリ此際突入前
走り乍ラ射撃ヲ行ヒ敵ノ狼狽セル機ニ乘リ三名
ヲ刺殺セリ

二、遷安攻撃ノ際高橋中尉カ負傷ノ為夜間自動車
ニ依リ後送中既殘兵ノ待伏ヲ受ケ掩護兵ハ直チ
ニ下車シ鈴木參謀ノ指揮ヲ以テ之ヲ攻撃セリ
徧徧十數名ノ敵ハ自動車ヲ包圍シ猛射ヲ為シ
銃ハ身ヲ挺シテ肉薄シ來ル中尉ノ當番兵數
千一等兵ハ車上ヨリ之ヲ射撃シ其ノ三名ヲ斃シ二
名ヲ傷ク敵ハ蒼惶トシテ退却セリ

第二 教訓

一、突入時射撃ヲ利用スルヲ可トスルコトアリ

0945

二、乍候歩哨等ハ使用ノ機多シ

三、一人對數人ノ格闘ニハ射撃ヲ利用スルヲ有利トス

四、所見

格闘ニ際シ有效ナル手段ナルモ投身ノ氣勢ヲ鋭ラ
サントスル爲メナシトセス故ニ射撃ヲ續テ刺突ヲ行フ
如ク要求スルヲ要ス

下級幹部タル分隊長ノ距離目刻ヲ演練スルコト

八家子ノ戰闘テアルカ交戦一時間余ヤカテ敵ハ退却
ヲ始メタリ 退却スルニ家屋ナル故道路以外ハ出來ス
敵ハ騎馬ナル故三四百米足ノ距離ニアリナカラ馬ヲ引キ
又馬ニ乗ツテ彈ノ下ヲ退却スルコト其ノ行動勇敢ナ
リ 分隊長以下距離ヲ近ク見誤リタルノカ一般ニ彈着
点近クシテ命中セズ敵悠々トシテ退却シタリ 若シ
彈着点遠クアツタラハ退却スル敵ニ對シテ全滅ヲ期シ

タコトト殲念ニ思ツタ

射撃ニ就テ

一、戦闘ニ際シ沈着ヲ失ヒ乱射ニ陥リ易シ充分訓練

ヲ要ス

特ニ下級幹部タル初年兵掛下士官ハ初年兵戦闘

各個教練及戦闘射撃ニ於テ特ニ此ノ点ニ注意ヲナシ

教育ヲ要ス

不意ニ敵ト衝突セル場合狼狽シテ有利ナル目標ニ

遭遇シテカラ恰モ野ニ免カ出タカノ如クアララレ

トカケ聲ヲ出シテ射撃ヲナス 持ニ家屋戦闘ニ於

テ多クアリ

二、至近距離ニ於ケル移動目標ニ對スル狙撃時瞬間目標

ノ射撃法ヲ演練スルヲ要ス

熱河攻撃ニテ支那兵ノ狙撃ノ巧ミナルコト及地物ヲ利

五三

0947

用シテノ射撃動作ノ熟練ナル點ハ模範トスル所アリ
小數ヲ射撃ト雖モ彈着正確ナルトキハ大ニ敵ヲ制壓スル
ルニ反シ效果ナキ射撃ハ却テ敵ノ志氣ヲ旺盛ナラシムル
ヲ以テ常ニ亂射ヲ戒メ眞ニ効果了ル射撃ノ實施ニ關スル
操典ノ趣旨ヲ一層徹底セシムルト共ニ方眼鏡付小銃ノ支
給ト射撃兵ノ技術ノ向上ヲ要ス

狙撃手

狙撃手ハ單ニ二名ノ狙撃兵ノミニ任セズ地形情况ノ之
ヲ詳ス以上一分隊或ハ五六名ヲ以テ狙撃セシムル可トス

例

昭和八年四月十三日律馬庄附近ノ戦闘ニ於テ午後五
時過キ敵ハ我ヲ包圍ノ態勢ニテ攻撃シ我カ大隊ハ
陣北赫集中同地ノ稜線ニ出沒スル時ハ一齋ニ七八發
ノ小銃彈ヲ狙撃手ヲ變ケ一者ト雖モ姿勢ヲ少ク高ク

0948

或ハ横行シエ事ヲ實施シ得ス又隣接分隊トノ連絡モ不可
能ナル状態ナリ

屢々思天ノ装置モナサス遠キ敵ニ對シ射撃スル散兵
擧ガラス之分隊長ノ指揮充テラサルハ勿論ナレトモ平
時ニ於テ的確ニ教育スヘキ余地多クアリ

從來射撃教育ハ六百米以下ノ距離ニテ教育シアルニ今
回ノ出勤間敵ト交戦シタル距離ハ概ネ六七百米以上ノ
距離ナリキ然ルニ兵ハ中距離ノ射撃ニ自信ナク其結果
モ良好ナラサルヲ例トセリ 將來ハ中距離射撃ノ伎倆モ
養フヲ要ス殊ニ特別射手ハ一般兵ニ比シ一段ノ技術ノ向上ヲ圖ルヘキナリ、
敬告戒心ノ旺盛

衆杖子ノ戦闘ニ於テ午前敵ヲ撃退シ安心シテ村落
ノ掃蕩ヲナシアリシ際再ヒ現出セル敵ノ射撃ヲ受
ケ機先ヲ制セラレシコトアリ 局部ノ戦闘終リシ爲メ

0949

警戒心ヲ怠ルヘカラス 全戦闘ノ終局迄 下級幹部
ハ勿論一兵ニ至ル迄 警戒心ヲ旺盛ニシ 敵ニ乘セラレサル
ヲ要ス 特ニ状況變化ナキ 匪賊等ニ對シテハ尚怒リ
射撃効果發揚ノ手段

敵ハ目前ニ集團シ之ニ猛火ヲ集中スルモ 仲々効果
多カラス 之カ爲 左事項ニ注意シ 訓練スルノ必要アリ

一、距離ノ測定誤差甚タ多シ之カ爲 平時ヨリ 山地平
地或ハ朝晝夕等時刻地形ニ應シ 又平靜時 激動

等各種狀況ヲ變更シテ 訓練セサルヘカラス
ニ 敵情ノミニニ注意シ 易ク部下分隊小隊ニ對シ 注意不

足ニナリ 易シ之カ爲 照尺ノ不正確 火力ノ分火等皆
適切ヲ缺ク

三、目標ノ指示ヲ適切ニシ 迅速ナル火力ヲ發揮セサルヘ
カラス 戰場ニテハ 目標ノ不明ハ 常ナリ 乃チ其缺ヲ

0950

銃眼ヲ利用スル敵ニ對スル射撃ハ甚ニ可トス
補フ為ニモ適切ナラサルヘカラス

戦例

昭和八年三月五日朝陽地ノ戦闘ニ於テ敵ハ前方ニ
方ニ在ル村落ノ圍壁ニ銃眼ヲ設ケ我ヲ猛射セリ之カ
為分小隊ハ全火力ヲ此ノ敵ニ浴セツツ猛進シ敵前ニ百
米近キハ百五十米ニ前進セリ然ルニ依然トシテ敵ハ猛
射ヲ繼續セリ當時第一線小隊彈藥欠セスルノ情
況ニ至リ又戦死傷者モ多出シアリコ頃大隊長(敵上
村中佐)第一線ニ進出シテ曰ク「オイ！圍壁ノ敵ヲ
ツテ射撃シテモ余リ効果ハナイコレカラ狙撃手々々々々
ト大隊長ノ此ノ注意ニ依リ狙撃手ヲシテ射撃セシ
メタルニ彈藥モ節約サレ友軍ノ損害モ減少シ敵
ノ射撃手モ漸次衰エタリ 同年五月十三日 劉 穂 旗

五五

0951

營附近ノ戦闘ノ際モ大隊長ハ第一線ニ進出シ常ニ
狙撃ヲ要求セラレタリ當時小隊ハ劉槐旗營ノ東
方高地ヲ前進ス地形ノ關係上敵ノ集中火ヲ受ル
コト大ナリキ故ニ小隊ハ輕機一介隊ト小銃ノ射撃
手若干ヲ以テ戦闘シ敵ヲ撃破シツツ然モ一名ノ負
傷者モ出サス有利ニ當日ノ戦闘ヲ終エタリ
右ノ經驗ニ依リ彈藥ノ節約又無益ノ損害ヲ避
ク爲必要ナル以外猥リニ第一線ノ兵力ヲ増大ヲ嚴
ニ戒メラレタル操典ノ精神ヲ了得セリ
瞬間現出スル目標ニ對スル射撃動作ニ就テ
陣地ニ據ツテ居ル敵兵ハ頭ヲ少シクエケテ射撃シ直ニ隱
レル故ニ吾カ軍ハ十分注意シテ迅速ニ射撃要ヲ要ス
瞬間現出スル目標ニ對スル射撃動作ヲ冒以上ニ鍛練
スルヲ要ス

0952

追撃射撃ニ就テ

北寨ノ敵ヲ撃退シテ其ノ村端ニ迄退シ致スル敵ニ
對シ追撃射撃ヲナス 此時其ノ大部分ハ落着ヲ失
テ立射ヲナス 命中弾少シ伏射ヲ命シ始テ敵ヲ射殺
シ得 如何ナル目標ニ對シテモ確實ナル射撃姿勢ヲ
トルコトヲ演練スヘキナリ

戰場ニ於ケル射撃ニ就テ

昭和八年五月十二日歩兵第二十三聯隊ハ東寨庄附近
灤河渡河戦ヨリ引キ續キ追撃ス 大五里附近ニテ敵
ノ密集部隊退却スルヲ發見ス我軍ハ好目標ナリ
ト山砲機關銃小銃一齊射撃ヲナス距離約四百
米敵ハ散乱シテ退却セリ前進シテ見ルニ敵ノ死
體僅ニ二三名ニ過キスカハル好目標ニ對シ確實ナ
ル照準ニテ一齊射撃ヲ行フモ命中弾少シ 我軍

ハ如何ナル戦況ニ遭遇スルモ沈著シテ射撃スルノ技能ヲ
演練スヘキナリ

散兵ノ射撃手ハ狙撃ヲ最トス照準ノ修正ハ各個ニス
ルヲ本旨トスル如ク要求シ置クヲ可トス短時間ニ照準
撃手發スルニ習熟セシムルコト必要ナリ尚見エ難キ目標
ニ對スル射撃ヲ尚一層訓練スルヲ要ス

不意急襲的射撃カ敵ニ及ホシタル精神的效果ノ大ナル
戦例

四月廿五日ハ各寨附近ニ於テ中茵支隊ニ屬シタル第
ニ大隊ハ友軍ノ追撃ヲ受テ退却中ナル約二千内外
ノ敵ノ退路ニ進出シハ各寨部落ニ隱蔽展開シ敵
ノ進接ヲ待テリ然ルニ敵ハ全然我大隊ノ存在ヲ知
ラス疎開隊形ヲ以テ高地後線ヲ下リハ各寨部落
ニ向テ退却シ來レリ大隊ハ敵ノ進接ヲ待テ不意急

0954

襲的ニ一着ニ所要火器ノ射撃ヲ敵ニ集ムルセシカハ
流石ニ十倍スル敵モ精神的ニ大打撃ヲ受ケ全ク
怯弱ノ意志ヲ失ヒ右往左往為ス所ヲ知ラス其ノ
振設程度ニ達シ一發モ我ニ應射スルコトナク潰走
セリ不意急襲的射撃カ如何ニ精神的ニ大ニ効
果ヲ及ホシタルマヲ知り得ヘシ

接戦ニ於テハ小銃ノ射撃効力殆トナシ

冷口戦ニ於テ吾人カ突入シタル時逆襲スルアリ退却
スルアリ近キハ遠キハ數十米ニ過キス此際我兵ハ手
榴弾ト共ニ小銃射撃ヲ併用セリ然ルニ其ノ効力
殆トナカリシモノ如ク一發ノ下ニ斃レシモノハ殆ト
ナク單ニ傷ヲ負フテ逃ケ行クモノ多キ状態ナリキ
恐ラク技能其ノモノノ拙劣ニヨルニアラスシテ心急ギタ
ルニヨルモノ多カルヘシ斯ル場合指揮官ハ何等カ

0955

ノ工夫ヲ行フヲ可トス

射撃目標ノ指示ハ的確ナルヲ要ス

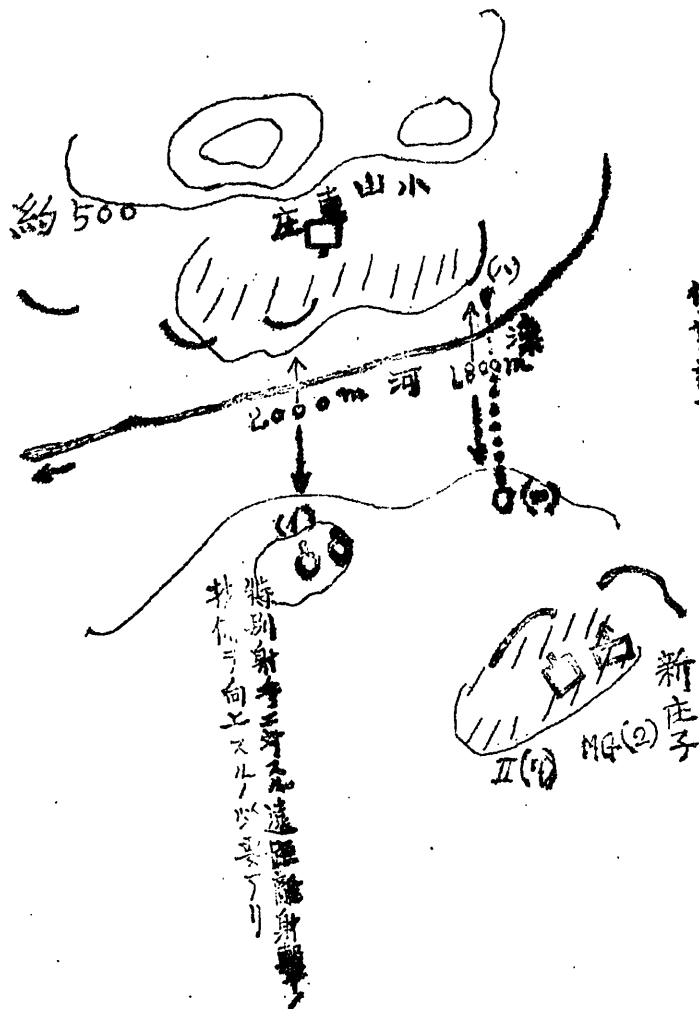
朝陽地ノ戦闘ニ於テ戦闘初期約三百米位目標ヲ
確認シ能ハサル為部下分隊ニ射撃區域ヲ示シテ射撃
セシメタルモ兵モ目標ヲ認め得ス故ニ射撃スルコトナク

敵前ニ百米ニ近接シテ射撃ス

諸戦ニ於テ射撃手効力ニ就テノ體驗

昭和八年四月十日冷口總攻撃開始セララルヤ敵ノ第一線
陣地ハ退却ヲ開始セシタメ敵影ヲ認め得ス前進ヲ
開始セリ午前八時三十分長城ニ山脚ニ達セシ頃前
方約三四百米ノ地點ヲ退却スル敵ヲ發見シ之ヲ一箇小
隊ノ兵員一齊ニ射撃ヲ開始シタルニ初メテ體驗スル
實敵ノタメ其ノ命中効力至テ不良ニシテ後日ノ笑話ト
ナレリ然ルニ某下士官ニ名ニテ射撃ヲ開始シタルニ三

新庄子警備要圖



發ヲ以テ其ノ凶名ヲ熒シ得タリ之即チ戰場心理ノ一端ニシテ精神ノ緊張ノ度過キタルヨリ一禍失ト見ルヘク將來兵ノ教育指導上参考ノ一端ヲ資セントス

作畫計畫ハ地形圖用紙細部ニ亘リ計畫セラルヘシ

0957

優秀ナル射手ハ數百倍ノ敵ヲ震駭セシム

一、河北省永平ヲ占領後中隊ハ新庄子警備ノ命ヲ受
ケ要圖ノ位置ヲ警備スルコトニナツタ 敵ハ要圖ノ如
ク遼西地域ニ河舟二十四隻ヲ有シ障地構築中デア
ツタノテ中隊ハ此ノ敵ヲ監視ノ爲ニ毎日五六名ノ駐止
斥候ヲ遼東地域ニ派遣セラレテイタ 或日午前十時頃
巡察ヲ命セラレタノテ駐止斥候ノ位置ニ行キ敵情ヲ
見ルト敵ハ約二千米ノ位置ニ大キナ姿勢ヲナシ障地
構築中デアツタ 余リ大ニ姿勢ヲナシイルノテ或兵
二名ニ遠距離狙撃ヲ命シ狙撃セシメタカ何ノ反應
モナク平然トシテ作業ヲ繼續シテイタノテ合ノ位置ニ至
リ狙撃セシメタカ又何ノ反應モ得サカツタ ソレテ自ラ
銃ヲ取り敵ノ(ハ)シ障地ヲ狙撃シタ所散兵壕ノ真中
ニ命中シ續テ二彈モ命中シ五名居タ所ノ敵二名ハ部

落ノ中ニ逃ケ他ノ三名ハ壕ノ中ヨリ姿ヲ見セテカッ
ラクシテ部落ヨリ將校ヲシキ者一名ト兵ヲシキ者二名
カ(ハ)ノ散兵壕ニ來テ繃帶スルノカ見エタソコテ又
シタ所壕ノ縁ニ命中シタノテ大ニ狼狽シ繃帶モ其ノ
部落ヘ逃ケ込ミ敵ハ全部作業ヲ中止シ陣地ニツキ射
撃ノ準備ニ移レリ敵ハ後半ヨリ散兵壕ノ内ニテ
リテ過セリ優秀ナル射手ハ實ニ數百倍ノ敵ヲ震駭
セシムルノ價値アルヲ體驗セリ

吳太溝四官營子附近匪賊討伐

一、遠距離ニ於ケル運動中ノ敵ニ對スルMG射撃効果距
離千米乃至千二三百米ニテ射撃開始ス敵ハ退却シ
アリ目標明瞭ナレトモ命中セス彈着ノ修正不適當ナリ
シモノト認ム

二、吳太溝附近岩石地ニテ射撃手セシニ彈着不明ナリ距

射撃手

- 一、戦闘ニ際シ沈着ヲ失ヒ亂射ニ陥リ易シ充分訓練ヲ要ス特ニ目標ヲ確認セス無意味ヲ發射ハ平素ヨリ嚴ニ戒メサルヘカラス
 - 二、至近距離ニ於ケル移動目標ニ對スル狙撃瞬間目標ノ射撃手法(窓等ニ現ハルル)夜間最近距離ニ於ケル狙撃手各種情況ニ於ケル手榴彈ノ用法ニ慣熟セシメ置クヲ要ス
 - 三、共ニ分隊長ハ全然彈着修正ヲ企圖シ得ス小隊ノ命ニヨリ實施シテ射撃指揮能力ヲ向テ痛感セリ
- 離ハ千米多少ノ損害ヲ與ヘシモ全然彈着觀測不可能ナリキ從テ彈藥ヲ徒費セシト著シ遺棄死體ニハ上半身ニノミ命中シアリシヲ見レハ或ハ彈丸ハ陵縁ヲ超過シアリシニ非ヌヤト思考セラル
- 五九

0960

射撃教育ハ尚一層中距離射撃ノ教育ヲ實施シ且狙撃
ヲ勵行スルコト必要ナリ從來射撃ハ近距離ヲ以テ主眼
トシアルモ今次事變ノ結果ニヨレハ近距離射撃ハ勿論益
益向上スルヲ要スルモ滿蒙ノ如キ大平原ニ於テハ中距離及遠距
離ノ射撃モ亦相當必要ニシテ平時教育ニ於テ全然之ヲ實
施セサルハ適當ナラス將來改善ヲ要スルモノトス又射撃教育
中狙撃ノ教育ヲ十分テラシムルヲ要ス反滿洲國軍ハ彈
藥ノ缺乏ニ基クコトハ勿論ナルモ狙撃ヲ勵行シ其命
中モ亦侮リ難キモノアリ我國軍ニ於テモ將來此ノ點ニ十
分力ヲ用ヒ養成シ置クヲ要ス
不明目標ノ發見及指示法ハ更ニ熟練ヲ要ス特ニ平坦開
豁ニシテ一物一草ヲ有セサル地形ナルニ於テ特ニ然リ
突前ニ行フ射撃ヲ所謂格闘射撃ハ有効ナリ

0361

六〇

0962

陣中勤務

六

0963

教訓

始テ戰場ニ臨ミ敵ト一戦ヲ交フルコトナク敵情不明裡ニ行
動スル時ハ指揮官以下ヲシテ極度ニ緊張セシメ敵言戒ノ爲
必要以エノ勞ヲナシ軍隊ヲ疲勞セシメ易シ而シテ慣ルルニ
從ヒ却ツテ警戒ハ懈怠ニ陥リ易シ

大隊カ始メテ三角地帯ニ行動セントスルマ當時知リ得タ
ル敵情ハ數千ノ匪賊友軍ニ包圍セラレ其ノ退路ハ大
隊前進方向タル砂子崗ノ方ニノミ開放セラレアリトイフ
ニ過キサリキ而テ大隊ハ前進ヲ開始シタルモ敵ニ關シ何
等得ル所ナクシテ日没トナリ宿營ニ就ケリ其ノ宿營
ノ状態ヲ觀ルニ大隊ハ數軒ノ家屋ニ狹縮且警戒急ノ舍
營ヲナシ小隊ノ如キハ二間ノミヲ有ス一家屋ニ舍營警戒
ノシ其ノ警戒ハ下士哨ニ更ニ複哨ヲ重用シ之ニ配ス
ルニ巡察ヲ以テスル寔ニ至嚴ナルモノナリキ斯クノ如キ

0964

ハ始メテ戰場ニ望ミ且敵情不明ナル爲ニ指揮官以下
カ極度ニ緊張シ故ニ警戒ノ爲ニ必要以上ノ兵力ヲ勞苦
トヲ用ヒタルモノニシテ徒ニ軍隊ヲ疲勞セシムルニ過キサリ
キ 警戒ハ畢竟非戦闘行爲ナリ之カタメニ無用ノ
兵力運用ヲヘカラス必要ノ最小限ヲ以テ足レリトス他ハ
大ニ戦闘ノ余力ヲ保有スヘキナリ 然リト雖爾後行
動ニ於テ吾人カ經驗シタルカ如ク慣ルルニ從ヒ警戒
ヲ疎略ニセントスルカ如キハ又火ニ戒慎ヲ加フヘキコトナ
リ要ハ要務令ノ狀況ニ應スル警戒ノ要領ヲ玩味シ
其精神ヲ把握スルニ在リ
任務ヲ受ケタルモノニ對シ疑惑ヲ思ハセルナ

昭和七年十二月二十日南雜木ニ下車ヲテシ警戒備地ニ前
進セントス到着ト同時我小隊ハ約五里前方ノ地點
ニ宿營ノタメノ設營トシテ先發ノ命令ヲ受ケテ同

0965

百午前上時現在地ヲ發シ任務ニ向テ前進セリ大陸
ノ第一歩武裝ハ重イシ氷ニハ行軍約三料三四ノ休憩
ヲ要シタレハ兵ノ疲勞大ナル難行軍ノ經驗ヲナメツ
ツ約ニ里ヲ前進セルトモ後方ヨリ一臺ノ滿洲國ノ自動車
來リテ先發隊ハ竦ニ南雜木ニ歸ルト申シ來レリ小
隊長ハ直感ス兼テ教育ニ良ク支那人ハ騙詐ニ掛ケル
カラ注意セヨト愈々今後コンハ騙詐ニ違ヒナイト思エリ
小隊長ハ任務ヲ受テ前進中ナルニ付目的地ニ向テ前進
セントス然ルニ自動車ハ隊長ノ命令タカラ前進サセ
ナイト謂フ小隊長徒方ニ暮レルコト約一時間ナリモ遂
ニ腸ヲ決メ先任分隊長ニ輕機一分隊小銃一分隊ヲ指
揮セシメ後退サセシニ後退命令確實ナリシコト判明
セリ故ニ南雜木ニ後退セリ小隊長ノ所感トシテ公平
生ノ教育ニ於テ指揮官部下ニ任務ヲ命シ後ハ必要ニ

0966

應シテ命令ヲ取消ス場合ハ必ス確証ヲ持タセルカ又ハ
傳令ヲ發セザレハ任務ヲ受ケタル責任者ハ徒方ニ暮シ
無駄ナ時間ヲ費スト共ニ非常ナル疑惑ヲ感スルモノテ
アル故ニ以後ハ必ス斯ノ如キ事無キマツ指揮官ハ注意
スルノ必要アリト感ス 爾後各中隊長ヲ集メ大隊長
ノ決心變更ノ場合ハ必ス副官若クハ書記ヲシテ傳達
セシムルヲ以テ然ラサル場合ハ如何ナル事アルモ命令通
リニ任務ニ邁進スル如ク注意ヲ與ヘラル

警戒勤務等ニ於テハ馴ルルニ從ヒ油断ヲ生シ久シキ亘
リ倦怠ニ陥ルハ一般ニ陥リ易キ弊害ニシテ幹部ノ熱心
心アル服務ト共ニ弊害除去ノ工夫トヲ要ス

地形偵察ノ必要

一地ニ駐留セハ必ス大隊長或ハ中隊長副官又ハ小隊
長ハ充分地形ヲ偵察サレルカ否ノ考テハ一兵ニ至ルマテ

0967

前迄ノ地形ヲ充分認識シ高ク或ハ低ク石ノ公ゾイル處マ
テ知テ居ル必要アルト痛感ス

四月二十五日ノ北釧河口ノ戦闘ヲ回顧スルニ一般ニ地形
ノ認識不充分ナルヲメ戦闘ノ効果カ割合少テカツタ
ヤウニ感ス 若シ地形ノ認識充分テアツタナレハ第一ニ
中隊ノ一時分ラテカツタ五名ノ兵モ斯クノ如キ失態ナ
ク又報告ニ歸リ又任地ニ就ク歩哨カ敵中ニ入リ戦
死シタ此ノ兵モ或ハ戦死セスニ濟ンタカモ知レナイ 又大
隊本部城壁ヨリスル射撃ノ効果モ充分治メタク
トト思フ或ハオ互ノ不安モ幾分防ケハシテカツタカ
ト考ヘル

此等ノ點ヨリ將來敵地ニ於テ例令敵ノ遠近ニカカハラ
ス充分地形モ偵察シ一兵ニ至ルマテ熟知シテ居ルコトカ

必要テアルト感セリ

小隊ハ北寨北方ノ敵ヲ驅逐シ西端ニ進出ス然ルニク
リークレノ爲前進不能トナリ對岸ノ敵ニ對シ突入ス
ルヲ得ス其ノ處置ニ窮ス

此ノ方面ノ土地ニ於テハ敵彈ノ來ルトキ又ハ判然シテ敵
ヲ發見シテイル場合ニ於テモ乍候ヲ出シテ地形ヲ偵察
スル必要カ十分アル然ラサレハ敵ノ直前ニ於テ前進不能
トナリ不覺ヲトル

戰闘進十端ハ常ニ完全ナルヲ要ス

八家子ノ戰闘ハ憲兵ノ情報ニヨリ前方部落ニ敵兵約
三百アルヲ知りタルモ日本軍隊ノ前進シ來ルヲ察知セン
カハニ退却スルモノト速断シ悠然トシテ戰闘準備モ完
ルニシテトナク前進ヲ續ケタリ尖兵八家子ノ部落ニ
入ルヤ倏然射撃ヲ受ク此ノ時ヤ既ニ避ク兵ニ心ノ準備

六四

0969

ヲナスヘキ所要ノ事項モ傳達セサリシ爲兵ノ沈着ヲ欲ミタルコト言語ニ絶ス彼是第一線トシテ展開セントスルモ命令號令徹底セス一地ニ猬集シ暫時危険ノ状態ヲ呈セリ此ノトキ分隊長ハ獨断テ九家屋ニ傍ル敵ヲ射撃シタルモ全般ノ情况ヲ遂觀スルノ着意ヲ欠キ只眼前ノ一二ノ兵ノミニ捉ハレ九家屋ノ九第一線タル第五中隊ノ戰鬥正面ナルコトヲ判断シ得ス當初ニ於テ小隊ノ稍分離ノ戰鬥ヲナシタル形ヲナセリ 戰鬥ヲ予期シツツモ不期戰ニ終リシ八家子ノ戰鬥ニ於テ九ノ如キ所見ヲ掲ケル

如何ニ素質劣等尤敵ニ對シテモ小隊長分隊長トシテ部下ニナサシムヘキ戰鬥準備ハ何時如何ナル場所ニ於テモ敵ト遭遇スルモ萬遺憾ナキヲ期スヘシ

例
一、宿營地出發前兵器ノ機能點特ニ輕機ノ機能及

0970

彈藥ノ裝填 彈藥ノ手入レ銃口ノ手入

ニ軍裝ノ堅實 鐵帽ノ準備

ニ一般ノ情況ノ指示

警言戒ハ常ニ嚴重ナルヘシ

四月二十八日北劉家口附近ノ夜間 戦闘ニ於テ小隊ノ警言

戒嚴重ヲ缺キシ爲敵ヨリ夜襲ニ乘セラレル機會ヲ

與ヘシメタリ

故ニ相午ハ支那軍ナリト雖モ常ニ油断テク警言戒ハ嚴

重ニ且又防備ノ爲出來得ル限リノ準備ヲ豫メ整正ヘ

置クラ要ス

地形ノ暗識ヲ必要トス

戰例

部隊ハ北劉家口ニ到着セル翌夜半敵ノ夜襲ヲ受ク

ルニ當リ各級指揮官始メ兵ニ至ルマテ陣地直前附

近ノ地形ノ偵察及友軍位置(歩哨)ノ知得不充分ナ
リタル爲夜間ニ於ケル重火器始メ各火力ヲ充令
ニ發揚シ得サリシコトアリ

教訓

對陣或ハ防禦等ヲナス場合ニ於テハ中距離以上ノ地
形地物等ハ能ク記憶シアルモ陣地直前或ハ前方ニ
在ル小部隊及歩哨ノ位置等ハ稍モスレハ記憶薄
キモノナレハ兵ニ至ルマテ記憶セシムルヲ緊要トス

搜索部署ニ就イテ

搜索部署ヲ形式化スルハ元ヨリ不可ナルモ數度ノ戰
ヨリ左ノ如キ一例ヲ得タリ

一、行軍間

(1) 突兵ニ成シ得レハニ三名ノ通譯(日本人ナレハ可ナリ)ヲ
附スルヲ可トス(少モ一名ハ絶対ニ必要ナリ) 各村落ニ於

テハ村民又ハ通行人ニ就キ適時所要ノ情報ヲ蒐集ス
四路上乍候ニモ通譯ヲ附セサレハ効果薄シ(歩ニスルニ)
ニ駐軍間

(イ) 近距離ノ諸村落ニ責任者(人質ヲトリ又威嚇スルニ
非サレハ効果薄シ)ヲ設ケ適時報告セシム

(ロ) 乍候派遣ニ關シテハ前項ニ同シ

住民ノ言ニ依ル情况蒐集ノ際爲ハラサルコト

實例……於三十家子警備間

昭和八年九月三日夕中隊長ノ命ヲ受ケ三十家子北方
約一邦里ニ匪首數名ノ部下ト宿泊中ナルヲ逮捕ス
ヘク密發シ同夜半該地ニ到着村落ヲ包圍シ該匪
ノ宿舎ニ至リシ又目スル該匪ハ見當ラス茲ニ於テ
同地ノ住民ヲ一集メ嚴重ニ調査セシモ容易ニ
發言セズ本情況ヲ報告セシ自衛團員ノ言ニ

0973

依レハ事實ナリト云フ何レニシテモ住民ノ言ニ疑ハシキ點アリタ
ルヲ以テ住民ヲ各人毎ニ別々ノ場ニ運シ強制的ニ尋問
調査ヲ行ヒシニ甲ノ者ハ時々此ノ部落ヲ匪賊通行スルト言ヒ
乙ノ者ハ該匪首ハ三日前來リ同日夕出發セリト謂フ丙ノ者
ノ言ニ依レハ該匪ハ昨日定宿ニ來リ一泊シ今朝出發セリト
謂ヒ最近ノ情況ヲ白狀セリ續テ該匪ノ宿泊セシ家主(女ナリ)
ニ對シ眞偽ヲ問ヒシニ甲乙丙三人ノ言ノ通り發言セサル爲 同家ノ
子供ヲ人質トシテ強制尋問調査ノ結果 甲乙丙三人ノ言
ノ通り白狀セリ

以テ如ク容易ニ發言セサルヲ以テ疑ハシキ場合ハ多少強
制的方法ヲ以テ調査スルニ必要ナリ

土民ノ言ハ直チニ信スル能ハス重要事項ハ必ス直接弁候
ヲ派遣シ偵察スルヲ要ス

戰例

五月十二日東寨庄附近ヨリ灤河ヲ敵前渡河スルニ先キ
附近部落民ヲ捉ヘテ其渡歩點ヲ偵知セントセシカ彼等
ノ言區々ニシテ河川ノ真相ヲ知ル能ハサルノミナラ
ス或ハ全ク其附近ハ水深大ニシテ渡歩シ得スト言
フ者アリ然ルニ弁候ヲ以テ渡歩點ヲ偵察セシニ直前
ニ渡歩シ得ル地點アリ

以テ土民ノ言ハ直クニ信ニ能ハサルコトヲ肝銘スヘキナリ
戰場附近ノ支那人ノ言ハ~~多~~逆虛ト思ヘ然シ其ノ國民
性ヲ承知ノ上調査ノ手段ヲ選フ時ハ容易ニ眞實ヲ捕ヘ
得故ニ手段方法ノ一例ヲ擧ケ彼等心理ノ奈辺ニ存在ス
ルヤヲ研究ノ上最善ノ策ヲ創意工夫セシコトヲ望ム

一比較的確實性ヲ有スル法

（他人ノ發見セサル場所ニ密カニ一名ヲ連行シ懇談的ニ尋

0975

同シ同一方法ニテニ三名ニ就キ調査シ其ノ言概不同一ナルトキハ或ハ在度信用スヘキナリ

(四) 敵根據地至近ノ場所及最近敵ノ通過地點等ニテ尋問シ「不知」或ハ全ク豫想外ノ事ヲ答ヘタル時ハ強制尋問ヲ可トス尚又便衣ニ對スル警告ヲ嚴ニシ敵ニ好意ヲ有スルモノトシテ

(一) 人選ハ青年若クハ少年ノ如キ妻子ナキヲ可トス

(二) 金品ノ附與ハ相當効果アリ

二、最モ不確實ナル方法

(一) 行軍路上及休宿地附近ニ集合セル者ニツキ合同尋問

(二) 二人以上同所ニ在ル者ニ對スル尋問

(三) 最初ヨリ強制的尋問

諜報(附密偵ノ使用)

一 綿密ニ組織セラレタル諜報網ハ近距離搜索ニ缺クヘ

カラサル手段ナリ

ニ改治工作未タ普及セサル地方ニ對スル謀報網ノ構設及
訓練セサル密偵ヲ使用スルニ當リテハ利用ヲ以テ誇フト
共ニ人質ヲトリ失敗セハ生命財産ヲ危クスル等ノ感
嚇ヲ加フルヲ要ス

大家屋ノ利用

支那部落ニ宿營ノ際ハ完全ナル圍壁ヲ有スル大家屋ヲ
選定シ圍集シテ宿營(或ルヘク一中隊ヲ一家屋)シ其ノ警
戒ハ測防柵舎ヲ利用スル家屋防禦ヲ以テ主體トシ若
シ村落ノ周圍ニ對シ警戒兵配置ノ必要アル場合ニ於テモ
輕機銃銃一分隊ヲ最小限トシ或ル可ク柵舎ニハ圍壁ヲ
利用シテ配御スルヲ可トス(獨守混入被三千師)
又夜間連絡ノ爲ニハ携行セル電話機ヲ使用シ小數ノ傳
令ハハ險ヲ爲之ヲ使用セサルヲ可トス(三千師)

0977

採炭ニ就テ

冬期ノ合營ニ於テ炕ヲ使用スルニ方リテハ破損ノ有無ヲ
點檢シ一時ニ過度ニ焚クコトナク徐々ニ焚キ、要スレハ夜間
一ニ回之ヲ焚カシムルヲ可トス一回ニ使用ス燃料八十瓦以上
ナラサルヲ可トス然ラサレハ過熱シテ睡眠ヲ妨クヘシ(獨逸)
燈火ノ設備

燈火ノ設備ナキ所多キヲ以テ常ニ蠟燭其他ノ照明材料
ヲ準備スルコト肝要ナリ(混回旅)

設營隊ニ就テ

設營隊カ配宿スルニ方リテハ各戸ヲ綿密ニ調査後各隊
ニ配備スルヨリモ概見ニ依リ區分配當シ各隊ヲシテ配宿ヲ
實施セシムルヲ適當トスル場合多シ蓋シ支那家屋ハ一
見シテ其ノ收容力(坑數)ヲ觀察シ得ルヲ以テナリ(獨逸)
瓦斯中毒ニ就テ

0978

昭和七年十二月二十日山城鎮出發通化ニ向フ途中二十二
 日夜柳河ニ於テ村落露營ノ際同日午后十時頃ト
 思フトキ某兵屋内入口迄出来来リ轉到セリ(悪言
 丁度其時居合セタ私ハ瓦斯中毒ヲ直感シ直ニ特務
 曹長殿ニ連絡スルニ全員ヲ起シ家外ニ出セト一早
 ク之ニ應スルニ家外へト出テ來ル兵ノ中ニ四五名續イ
 テ轉倒ス右同時ニ連絡セシ軍医殿ハ其中來リ別
 條ナク中毒ト判定手當ヲナスニ約一時間位ヲ後快
 服スルニ至レリ

之酷寒地方時ニ支那家屋ヲ利用スル場合全員カ
 注意スヘキコトアル也ニ其ノ原因ヲ述ヘン

- 一、家屋ニテ煙突・オンドルノ装置破レテ居タコト
- 二、右ニ基固シ煙カ部屋内ニ充満シタコト
- 三、空腹及睡眠不足ノタメ

0979

窒息ニ就テ

昭和八年十二月二十日山城鎮驛ニ初メテ下車シ其夜ハ同地ニ宿泊シ三日ヨリ任地ノ通化ニ向テ行軍スルコトトナレリ行軍途中第一日二十日ハ柳河ニ於テ日没トナリ宿泊スルノ已ム無キニ至リ該地ノ空家ニ泊セリ其ノ夜最モ驚嘆スヘキ事件ヲ惹起セリ夫レハ窒息病ヲアル兵ハ前夜ノ睡眠不足ト長途ノ行軍ト雪中行軍ニテ疲勞困憊シナル為ニ宿舍ニ着クヤ直ニ所要ノ準備ヲ終リオンドル及湯沸ノ為ニ釜ノ火ヲ焚キ眠リニ就ケリ給養係カ經理室ヨリ糧秣ヲ受領シ歸リ炊事ニ取掛ラントシテ某兵ヲ起サントスレハ豈圖ランヤ其ノ兵ハ全ク意識ヲ失ヒ假死ノ状態ニアリ他ノ兵ヲ起サントスレハ之又同ニ状態ナリ此夜重軽合セテ名位續發セリ一回大ニ驚キ早速家外ニ抱出シ新鮮ナル空氣ヲ吸ハシ

七〇

0980

メムマラ衣ノ鈕ヲ脱シ種々ノ手當ヲ施シテ恢復セ
シメタリ

豫テヨリ瓦斯中毒ノ話ハ聞テ井タル所ナルモ余リ輕視
シタル為斯クノ如キ失態ヲ惹起シタルモノト思考ス故ニ
天井依ク周圍ハ全ク密閉サレハサキ支那家屋ニ於テオ
ンドル或ハ炊事等ノ為焚火セントスルトキハ障子ヲ破リ
孔ヲ空ケルカ窓ヲ少シ開ケカ或ハ其他ノ方法ニ依リ通
風ヲ良好ニシ室内ニ煙ノ充満スルカ如キ事ヲキヤウ注
意ガ肝要テアルア^イコノ事ヲ兵ニ徹底セシメタラスク
ノ如キ失態ハ起ラヌモノト思フ

宿營ニ就テ木炭瓦斯中毒ニ對スル體驗

滿洲附近ノ木炭ハ内地ノ木炭ニ比シ質惡ク之ヲ使用ス
ルトキハ炭酸瓦斯多ク發生ス之カ爲木炭ハ使用セザ
ルヲ可トスルモ已ム無ク使用スル場合ニ在リテハ尤ノ件ニ注

0981

意スルヲ要ス

一、就寢ノ際ハ必ス消火シ窓ヲ開キ空氣ノ交換ヲ行
ヒ窓閉子爾後就寢スルコト

二、支那家屋ハ密閉シアルニ付家屋ノ大小ニ依ルモ一
室ノ上方ニ二十種平方ノ応ヲ二箇所以上設ケ瓦斯
ヲ發散セシムルコト

三、然ラサルトキハ瓦斯中毒ニ罹リ人命ヲ失フコトアリ
木炭瓦斯中毒ノ實例

昭和八年三月九日高田支隊ニ屬シ邊場山附近ノ
戦闘ニ参加シ同地ノ匪賊ノ掃蕩ヲ終ヘ三里位後
方圍城ヘ移動シ同地ニ宿營セリ中隊指揮班夕
リニ准士官一曹長ニ兵三八諸事ヲ終ヘ支那リ
ーメンニ支那酒ヲ口ニシ愉快ニ枕ヲ並ヘテ就寢
セリ時ニ午後十時過テリ然ルニ其夜零下三十餘

0982

度ノ極寒アリ銖リ寒イテ或ル兵 オンドルノ火ヲ
焚クコトシ宿舍ノ支那人ニ命シタルニ火鉢ニ火ヲ起
シ持チ來レリ其火鉢ノ點檢モ實施セスシテ其
兵就寢セリ其後炭酸瓦斯ハ同室ニ充塞シ六
名共其儘ニシテ人事不省トアレリ比ノ時第二大隊
本部ノ指揮班某軍曹命令傳達ニ來リ中毒ニ
罹リ絶命ノ時機ニ達シ居ルヲ知り應急ノ處置
ニ依リ人命ヲ救ハレタリ

給養ニ就テ粟飯ノ焚キ方ノ體驗

戰地ニ於テハ時々糧秣飲令スルコトアリ併シ支那
人ハ粟ト高粱ヲ常食トシ生活セリ故ニ各地其粟
アリ糧秣飲令シタル時粟ヲ焚キ食スル場合ハ糊
食ヲ焚キ使用セハ良好ナリ 普通食ノ如ク林火キタ
レハ非常ニ食シ難シ

0983

嚴寒時ニ於ケル行軍ニ依リ得タル體驗

一、炊事ニ就テ

聯隊主力カ昭和七年十二月下旬山城鎮ヨリ警備地
通化ニ向フ行軍宿營間聯隊本部傳令中(三名)
支那式大釜ニテ炊飯ヲ知ルモノ一名モナシ故ニ炊事等
下士官ノ手ニ依リタル爲三十名近クノ人員ノモノカ宿營
ニ着テヨリ一時間乃至二時間ヲ要シタリ勿論下士官ニ
於テ指導シ每範スヘキハ言ヲ俟タサルトモロナルモ
平常飯盒ニヨル炊事ヲ演練スルト共ニ時ニハ一半焚
位ノ大釜ニテ炊事シ置ケハ將來滿洲ノ地ニ於テ炊
事ノ際比較的迅速ニ然モ黒焦ケ半熟等ノ失敗
ナク炊事シ得ヘシ嚴寒時室外ニ於テ飯盒ヲ以テ炊
事スルハ土地ノ掘開、燃料、水等ノ爲困難多シ支
那人家屋ニ如何ナル家ニモ大釜アルヲ以テ是ヲ

0984

二 利用スルヲ可トセン
命令筆記ニ就テ

嚴寒時ニ於ケル宿營命令等下達ノ際ハ筆記者防
寒手袋ノ儘筆記シ得ス已ムヲ得ス手袋ヲ脱シテ
筆記スルヲ以テ出來得レハ豫メ印刷シ置キ必要事
項ノミ記入シヌハ部隊ヨリ一寸先遣シ(部隊ヨリ目
視シ得且火力ニ依リ掩護シ得ル範圍)民家ニ立寄
リ筆記セシムルカ已ムヲ得ス途中ニ於テ下達ノ際ハ
其ノ要旨ノミ筆記セシムルヲ要ス手袋ヲ脱シテ七
八分モ経レハ手ノ感覺ヲ失シ筆記困難トナレハ
ナリ亦大隊本部以上ノ書記ハ全員復寫式ノ通信機
ヲ携行シ置クヲ要ス

三 車輛監視兵ニ就テ

徒歩ニテ行軍スルモノハ休憩時用心サヌレハ凍傷

七二

0985

ニ冒サレルコト絶對ニテシ車輛監視ハ行程カ甚澁
ニテハ從ヒ幹部ノ目ヲ逃シ乗車シ手足ヲ動スコト
ヲ中止スル爲凍傷ニ冒サレ易シ激寒時ハ六張
リ徒歩ヲ第一主義トシ已ムヲ得ス大行李ノ車輛
ニ乗車セシ際ハ絶ハス手足ヲ動カシ静止ニ因ル凍
傷ヲ豫防スルヲ要ス

冬季防寒具ヲ着用シタルトキノ行軍行程ト其ノ準
備ニ注意スルヲ要ス

冬期防寒且ヲ着用シタル場合ノ行軍一層注意ヲ
要スルモノアリ即チ行軍ハ各種ノ武裝ヲ成シ保溫
ヲ完全ニシアル關係上行動ニ伴ヒ大ナル疲勞ヲ來
スト共ニ徒歩者ハ却テ發汗シ休憩時ニ至リ急激
ニ寒冷ヲ覺エ凍傷ヲ生スルコト屢々アリ幹部以下
特ニ注意ヲ要スル點ナリトス從テ其行軍ノ行程ヲ

短縮シ其ノ速度ヲ緩ニスルコト必要ナリ

熱河作戰ニ於ケル雪中行軍

熱河作戰ニ参加スヘク任務ヲ受ケタル飯田部隊(野山6k1/6A)ハ中央縱隊ト成リ二月二十三日午前五時彰武出發赤峰ニ向ヒ前進其日ハ大吹雪ニテ早朝ヨリ綿ヲ「キリテ」投ケル如ク寸時ニシテ積雪二三寸ニ及ヘリ車輛ニハ二週間分ノ糧食及兵器彈藥ヲ滿載シタル馬車中銃隊宛十四五臺ノ車輛ヲ有セリ彰武街ヲ出ルヤ砂漠地帯ニテ大行李ノ前進不可能ノ状態ナリ任務ハ赤峰ニ向ヒ急進セヨトノ命アリタル時機ナレハ致シ方ナク車輛ノ糧食ヲ半減シ行軍ヲ續行 風ハ強ク降雪其ノ度ヲ増ス許リ防寒具ハ奉天ニテ返納シテ身ニハ外套ヲ着セサルニ寒氣針ヲ以テ身ヲ刺シ鼻及

0987

午足ハ氷ニ落タル様ナリ然トモ南國ニ育クニ日向
徒元ハ寒力何ノソノ日頃鍛ヘタル健脚ヲ以テ雪
上ニ歩シメ或ハ蹴飛シテ前進ヲ續行セルモ大行李ノ
前進意ノ如クテラス依テ車輛監視ノタメ一車輛ニ四
五名ノ監視兵ヲ附セシメ部隊ニ續行シテ行軍出
得ス故ニ大隊ノ大行李ハ大行李長ノ指揮ヲ以テ
行軍スヘク命ヲ受ク流石健脚ナル健兒モ次第ニ疲
勞ヲ覺ス其ノ上晝食ヲスル家無クシテ空腹ノ爲倒
レル者數知シス戦友ハ走り寄り引キ起シ氣ヲ勵
マシ相助合ヒツツ漸マクニシテ午后三時頃大廟ノ部
落ニ達シ其處テ晝食及飼付ヲ齊マシ約三十分
休憩ノ上行軍ヲ續行ニ料餘ノ所ニ達スルヤ河在
リ氷上通過トナル氷上ハ滑リ馬倒レルコト甚シク爲
ニ滑走豫防トシテ氷上ニ砂ヲ撒キテ通過セリ

0988

河ヲ通過シ終ルヤ坂路トナリ車輛ノ前進一進一退車
 上ノ荷物ハ卸シ兵力ヲ以テ運搬シ空車輛ニシテ坂
 路ハ馬車ヲ牽上ケ又荷物ヲ車輛ニ積ミ前進ス
 ル爲一里ノ行程ニ三時間ヲ要セリ行ケトモ行ケト
 モ家ハ無ク寒カハ増ス許リ目ハ没シ頼リニセシ部
 隊ノ残セル鉄痕ヲモ認メル事モ困難トナリ部隊
 トノ連絡ヲ断タサルノ已ム無キニ至リ只地圖ヲ唯一ノ
 頼トシテ行軍ヲ續行然レトモ空腹ト寒氣ノ爲
 (其ノ日ノ午前二時頃零下四度) 疲勞困憊其ノ極ニ達シ
 テ倒レル者數知レス相助ケ合ヒツツ行軍ヲ續行
 二十四日午前三時半頃大行李ノ先頭漸々某部落
 ニ達ス
 全力ヲ竭クテ連絡ニ努メタルモ部隊トノ連絡全ク
 杜絶セリヤム無ク大隊ノ大行李長ハ大行李ヲ集

0989

合スル爲部落ニ停止シ各中銃隊ニ命シ人馬ノ點檢朝食ノ準備ニ務メリ兵ハ靴ノ手入レヲナサント靴ヲ脱カントスレトモ足ト靴ト附着シ脱クコト能ハス致シ方テ靴ヲ切破リテ靴ヲ脱クテ見レハ足先ハ青黒クナリテ感覺ナク初メテ痛サヲ感シ苦ミ出シタリ其レカ全員ニ近キ數テ完全ニ歩ク得ルモノ少數ナリ其ノ時始メテ凍傷ノ恐シサヲ知ルコトカ出來タ位テアル最速ク應急處置トシテ患部ヲ火ニ温ムルコトナク雪ヲ以テ患部ヲ磨擦セシニ皮膚甚ノ如ク成リタルモノ甚カラス

多數ノ患者發生シタル爲ニ前進意ノ如クナラヌ一日後シタルニ五日漸クニシテ部隊ニ追及スル事カ出來得タリ斯カル多數ノ凍傷患者ヲ出シタ

0990

ル事ハ我々下級幹部トシテ指揮官トシテ上ニ奉
リ申譯ナキ事デアル 將來戰鬪ニ度トカカル
如キ凍傷患者ヲ發生セシメサルカ如ク凍傷ノ豫防
方法ノ研究カ必要ナルコト思フ 私ハ幸ニシテ凍
傷ニカカラス又他ノ幹部ニ患者ノ少キ事カラ考ヘ
テ見ルニ其ノ時ノ凍傷ノ原因ハ九記ノ如キ事カ夫テ
ル基ト愚感スル次第デアル

一 防寒具ヲ附着セサルタメ

二 空腹及睡眠不足ナル為 體衰弱シ

三 夜行軍ヲ續行シ寒氣激シク靴下ノ取換ヲナス事

ナク汗ノタメ 滯レル靴下ヲ穿タタル儘行軍シテ為
四 疲勞ノタメ或ハ凍傷患者カ車輛ニ乘リテ眠リタル

タメ

五 靴ノ不適合及體質不良ナル者等

七五

0991

六 砂漠ニテ車輛ノ前進不能ニ陥リ兵停止スル時間長カリシタメ
以上ノ事項カ其ノ時ノ凍傷ノ重大ナル原因ニシテ

各種徴候ニ對スル理解ヲ深刻ニシ以テ視察手段ノ基
準ヲ得シムルコト必要ナリ之カ爲

一 地方風俗習慣ノ研究

二 敵ノ慣用法手段等ノ研究ヲ必要トス

密偵ノ選定要領

一 滿支那人ニ對シテハ金品ニ依リ優秀ナルモノヲ求ムルコト
ヲ得

二 僧侶新聞配達等ヲ選定スルハ有利ナリ

戰線附近ヨリテ適當トスルヨリテ適合ニ於テ通行スル旅
人戰場附近ノ住民好意ヲ有セサル場合ニ於テ通行シ
タル旅人ヨリ有力ナル情報ヲ蒐集セリ

徵候ニ就テ

凌源ニ家子附近ノ警備中 茶柵ノ匪賊討伐ヲ行ハル
部隊ノ行動ヲ秘スル爲 夜半準備ヲ整ヘ夜行軍ヲ以テ
目的地茶柵ヘ向フ 第三小隊ノ小銃一箇分隊ハ警戒ノ目
的ヲ以テ部隊ノ前方約三百米ノ距離ヲ先行ス 途中道
路ニ又シ小高キ丘ヲ挾ミテ右ト左ニ通ス 目的地ハ右ノ
道路ナルヲ先頭分隊ハ左ニ道ヲトリテ前進シ 終ニ連絡
ヲ切ル爲ニ本隊ハ更ニ警戒ノ分隊ヲ設ケ續キテ右ノ道路
ヲ前進シ 測ハ左ノ道路ヲ進ミシ分隊トノ連絡ヲ命セラレタ
リ 行方ニ當リテ大聲旺ナルハ部落内ヲ小銃分隊前
進中ナラント目標ヲ大聲ニトリテ馬ヲ馳セ 該部落端ニ
テ分隊ニ會フ 本部落ハ三又點ヨリ余程ノ距離ナレハ更ニ
引返シテ右道路ニ出ツルヨリ丘ヲ横断シ 右ノ道路ニ出ツレ
ハ必ス部隊ニ合スルヲ得ント思ヒ 小高キ丘(道路ノ中間ト思

七六

0993

タルノ中腹ヲ破リテ道無キ坂ヲ登リ畑ヲ過キ谷ヲ渡リテ
右ノ道路ト思シキ道ニ出ツ然ルニ意外合スヘキ部隊ノ
影モナク前後ニ耳ヲ傾クルモ夜半ノ暗更ニ人馬ノ動靜
不明ナリ故ニ丘ヲ横断スルニ時間ヲ費シ部隊ニ遅
レシモノト思ヒ歩度ヲ伸ハシテ前進シ再ヒ道路上ノ部落
ニ近クニ家犬鳴キ傳ヘテ喧噪ナルモ部隊ハ更ニ姿ナシ詮
カタ無ク一時其場ニ停止シ道路ノ様子ヲ探サントスレド
暗中意ノ如クナラス方向ヲ知ラントスレト未知ノ地ニテ星
ノ位置サヘ確ナラス其時思ヒ出セシハ犬聲ナリ心ヲ靜
メ耳ヲ傾ケルハ目前ノ部落ノ犬聲ハ遠近相傳ヘ既ニ近
路遠クニ聽ユレト其声部隊通過ニ驚ク喧シサト思
ヒ難シ故ニ部隊ハ前方ニ無ク米夕後方ナルモノト推定
シ其ノ位置ニ停止スルニ決シ後方ニ連絡セシニ遂ニ後方ヲ
前進シ來ルル部隊ニ合スルヲ得タリ僅カ犬聲ニノ

0994

ミ依レル判断ハ必スシモ適當トハ謂ヒ得サルモ暗中
ニテ方向ヲ知ラス部隊ノ通過ノ有無ヲ直接ニ定メ得
ス他ニ速ニ適當ナル方法ヲ思ヒ出シ得サリシ時ナレハ我等
ニハコノ場合犬聲一ツト謂ヘトモ貴重ナル徴候ト深ク
感シタリ

七七

敵ニ對シ疑シキ徴候ニ就テ
四月二十三日糧秣受領ノ爲早朝北劉家口出發建昌營
ニ至リ糧秣受領後歸隊途中北劉家口ヲ離ルル約二千
米ノ部落三里點ニ達スルヤ同日朝出發途中ニ於テ同
部落ハ志ク門口ニ日章旗ヲ掲揚シアリシモ歸隊時ニ於テ
ハ全ク掲揚セズモノナカリシヲ聞キ何カノ徴候ヲラサルヤト云ニ
話シ就寢セリ果然其ノ夜ノ二時頃不意ノ敵襲ヲ受
ケ猛烈ナル夜戦ヲ展開セリ以上ヲ考察スルニ前日既

0995

二部ノ便衣隊ノ替入ニ在リタルモノノ判断セラレルヲ以テ
敵地ニ於テハ些細ナル徵候ト雖モ一層ノ留意ヲ要ス

警備中ニ於ケル陣中勤務

歩哨及司令ノ服務計畫及ヒ之カ履行ニ就テハ平時要
務令教育及特別守則ノ教育理解ヲ今少シク嚴テ
ラシメ以テ野戰ニ於ケル失態ヲ防止スルヲ可トス特ニ甚ク
シキハ一般守則ヲ知ラサル者及特別守則ヲ熟知セサル者
等アリ人種ノ殊ナル者及他地ニ於ケル土民ニ對シテハ敵
視シ油断スヘカラサルノ教育ヲ必要トス(平時教育ヲ要ス)

歩哨ノ射撃ハ嚴ニ戒ムヘキコト

歩哨ハ獨立シテ任務ニ服スル關係上自己ノ危險ヲ感
シ敵ヲ發見スレハ速ニ射撃シ易シ斯ノ如キ射撃

ハ必ス亂射ニシテ銃口ハ天空ニ向フカ或ハ他方向ニ向
キ命中スルモノニアラス身備間ニ於テモ歩哨ハ亂射シ
易シ夜間ニ於テ特ニ然リ亂射ハ勿論一般ノ射撃ヲモ
戒メ宜シク白兵ヲ使用スヘキナリ

立哨ノ位置ハ遮蔽ト掩護ノ處置トヲ重要條件トス
歩哨ノ亂射スルハ一ハ敵方ニ暴露シアルトハ何等托ス
ヘキ地物無キニ依リ恐怖バヲ抱クヲ以テナリ故ニ歩哨
ハ位置ニハ遮蔽ト敵ノ奇襲ニ際シ掩護スル處置ヲ
講スルコト肝要ナリ然レ共白兵ヲ使用スル場合ヲ顧慮
シテ之ニ獲スル爲ノ出口ヲ設置スルコト亦必要ナリ

誰何ノ要領ニ就テ
誰何スルニ誰カヲ續ケ様ニニ三度連呼スルモノハ

0997

卑怯者ト見做スヘシ戰場ニテハ兵ハ恐怖心昇シアル
ニ依リ人影ノ近ツクヲ發見スレハ周章狼狽シテ
カハヲ連呼シ無分別ニ射撃ニ務ル斯様ナ誰向ハ
全然責任逃シ的ヲ方法ニシテ殺ニ戒シムヘキコトナリ
先ツ最初「誰カ」ノ氣聲ニテ相手ノ心膽ヲ寒カラ
シメルト同時ニ其ノ折リノ動靜態度ヲ深ク見届ケ之
ニ對スル處置ヲ爲シ後更ニ誰何シテ其ノ實體ヲ
察知スルコトク教育スルヲ要ス

歩哨ノ膽力養成ノ肝要

通化警備中某歩哨ハ三回誰何シ連續發射セ
リ後視察セシトコロ大ヲ射殺セルカ如キ等マリ特
ニ膽力ノ養成肝要ナリ

0998

歩哨位置ノ設備

城壁守兵間ニ連絡設備ヲ設クルトキハ夜間守兵ノ不安ヲ去ルニ効果アリ遷安城攻壁ノ夜間守備ニ當リ各守兵間ヲ小繩ヲ以テ連絡シ其ノ位置ニ小鈴ヲ附シ記號ヲ以テ互ニ緩急ヲ通報セシニ數度ノ敵ノ包圍攻撃ニ於テモ兵ハ非常ニ氣強ク感シタリ

動哨ハ躍進的ニ行進スルコトナク漫歩的ニ行動スルモノアリ爲ニ便衣隊ニ狙撃セラレ易シ

歩哨位置ハ掩體ヲ設ケ障碍物ヲ造リ或ハ村落ノ周壁ヲ利用スル等充分安心ニ警戒シ得ル如ク設備スルヲ要ス然ラサレハ往往ニシテ敵ノ兵現

0999

出時狼狽シテ適當ノ処置ヲ爲シ得ラレサルコト
アリ

支那村落ノ宿營法ハ村落内ニ集團宿營シ前哨
式ノ梯次警戒ヲ設クルコトナク村縁ノ圍壁ヲ直
接警戒シ且住民ヲ以テ自警團ヲ編成警戒セ
シメ人質等ヲ捕留シ置クノ方法ニ依ルヲ可トス

乍候ノ村落搜索ノ要領ヲ教育シ置クヲ要ス

夜間行動特ニ方向維持ニ習熟セシムルノ要ヲ感ス
夜間戦闘ニ於テ傳令カ方向ヲ誤リ敵中ニ逃ケ
返シ任務ヲ達成シ得サルコトアリ

部下分散ノ失敗ト方位判定

昭和八年二月二十五日行軍中一望無限ノ大沙漠ノ中ニ
於テ落位兵ノ搜索ヲ命セラレ宿营地ヨリ約二里
東方地點ニ部下六名ヲ以テ前進ス點在セル小部落
ヲ兵二名ヲ一組トシ分散シテ搜索ノ上歸途ニ就クモ
各兵ハ集合セス之弁候ノ分散スル場合ノ注意ハ
陣中要務令(第八三)ニ明記セルヲ知リツ極度ニ分散
セシ失敗ニシテ爾後數時間ヲ費シ辛シテ集合ス
ルヲ得タリ然ルニ歸路方位不明附近ニハ草木其
他地物ナク尚折悪シクシテ磁石モ持タス北斗星ニヨ
リ方向ヲ判定シ部隊ニ復歸セリ更ニ星ヲカリセハ
如何ニスルヤ之等ハ分隊長弁候長トシテ充分
研究亦注意スヘキモノナリト感シタリ

ノ
ト

合言葉(口令)ノ獎勵及是カ勵行ニ就キ
 高峯塞右高地ヲ占領スルヤ右側衛ヲリシ某中
 隊ハ該高地ノ要點タルコトヲ知リ一小隊ヲ派遣シ
 是占領ヲ命シタリト此ニ於テ小隊ハ既ニ陣地確
 保ノ部置ニ就キ前方ニ歩哨ヲ配置スルヤ兵ノ近
 接スルヲ發覺シ誰カ曰ト誰呼スルヤ誰啾(支
 那語)ト應答ス此ニ於テ輕機擲彈筒ニヨリ是ニ
 彈ヲ浴セカス何故斯クシタルカト言フニ當夜ノ
 命令ニヨリ合言葉ニ應セサルモノハ敵トシテ動作
 スハシトアリ又一方支那軍中ニモ日本語ノ流暢ナルモ
 ノ多シ是友軍ノ某中隊ナルコト後ニ至リテ判明ス
 幸ニ損害ナキハ何ヨリナリキ
 又遷安城ノ夜襲ニ於テモ四十五聯隊トノ協同攻撃
 ニヨリ彼我相近シタルトキ此ノ合言葉ノ如何ニ重要
 ナリ

ナルカヲ痛感セリ然ルニ是カ實行ハ概ネ不確實ナ
リ平時夜間ニ於テハ是カ訓練忘ルルヘカラス

携帶口糧ノ一部ヲ残シタレタメ支障ナク戦闘シ得タリ
中隊ハ出征以來馬占山打伐等ノ戦歴ニ鑑ミ各人
携帶口糧ノ三分ノ一ヲ残置スル如ク命セラレアリタリ
五月十三日ノ戦闘ニ於テ到着スヘキ聯隊大行李來ラス
携帶口糧ハ已ニ使ヒ果シ實ニ困惑シ居リタリ然レト
モ中隊長ノ命ヲ遵守シ自覺シ居タルタメ僅カノ米ト
徴發セシ粟トヲ以テ滿腹ニ爾後ノ行動ニ支障ナカ
ラシメタリ 因ニ戰鬥中ハ自己ノ携行セルモノ以外
ノ大行李或ハ徴發物ニ依リ満足セントスルカ如キハ
失敗ノ因ニシテ常常ヨリ大ニ自覺スヘキ事項ナリト
思フ 又味噌ヲ携行シ有利ナリキ冬季ハ凍ルコ

トナク夏季ハ齋ルコトナク僅カノモノヲ數回ノ副食物
ニ替ヘ又ハ味増汁ヲ造リ煮物ヲナシ大ニ元氣ヲ回
復セシメタリ

八
二

1004